

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

## 愛知県公共交通協議会

令和5年1月20日設置（愛知県バス対策協議会を改組）

令和5年6月30日 地域間幹線系統確保維持計画策定

令和6年6月11日 愛知県地域公共交通計画策定  
(計画期間：令和6年6月～令和9年3月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業

- ・ 地域間幹線系統確保維持国庫補助金

## ○令和6年度愛知県地域間幹線系統確保維持計画

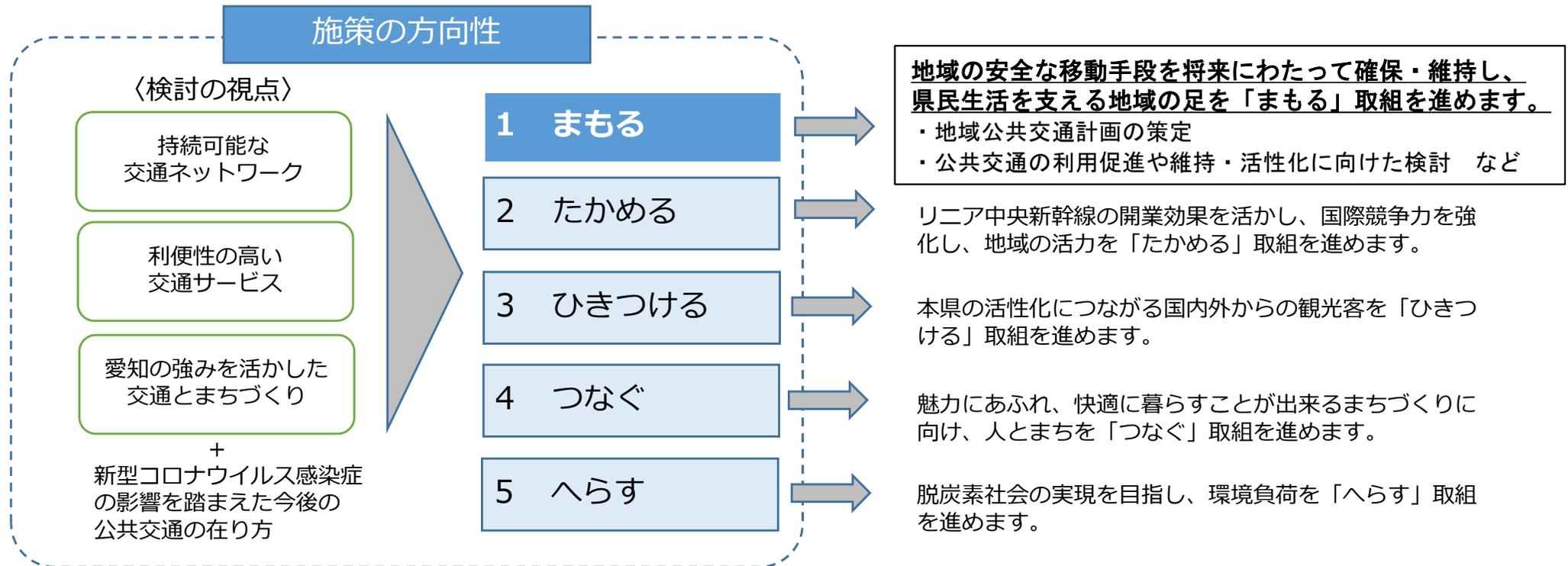
- ・愛知県バス対策協議会において、**63系統**を位置付け。
- ・運営主体別では、**事業者が32系統、市町村が31系統**。
- ・交通圏別では、右表のとおり。

交通圏	系統数
名古屋	5
豊橋	8
岡崎	6
一宮	4
瀬戸・日進・豊明	10
東海・半田・大府・常滑・美浜	7
小牧・犬山・江南	3
津島・あま・弥富	4
刈谷・安城・碧南・西尾	13
豊田	13
新城	4

※複数交通圏に跨る系統は重複計上

### 【参考】あいち交通ビジョン（取組期間：R4～R8）との関連性

ビジョンでは、目指すべき姿を「危機を乗り越え、輝く未来へつなぐ あいちの交通 ～モビリティ先進県を目指して～」と掲げて、持続可能な交通ネットワークの構築に取り組んでいる。



## ○愛知県地域公共交通計画の策定

持続可能な公共交通の確保・充実にに向けた方針や取組を示す「愛知県地域公共交通計画」を令和6年6月に策定。

国・県・市町村・交通事業者・県民等の役割分担のもと、県として取り組む施策を位置付け。

### ○目指す公共交通像

安心・便利な暮らしと、活発な経済活動を支える公共交通の維持・充実。

### ○主な県の施策

目指す公共交通像の実現に向け、3つの基本方針に基づき、取組を推進する。

#### 方針1 広域的な移動を支える幹線軸の維持・充実

- ・名古屋駅のスーパーターミナル化を推進
- ・鉄道駅の施設・設備のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化の取組を促進
- ・地域鉄道が実施する安全安定輸送に必要な修繕・設備投資を支援
- ・ホーム拡幅やコンコース拡大等の駅総合改善事業を支援
- ・市町村間交通を支える路線バスに対し運行経費を補助 など

#### 方針2 公共交通ネットワークを支える仕組みづくり

- ・タクシー、乗合タクシー、新モビリティ等の活用方法を検討 など

#### 方針3 公共交通をみんなで使い、支え、育てる意識の醸成

- ・自動車から公共交通への転換を促進するための情報発信や啓発を実施 など

## <その他公共交通活性化に関する主な取組>

### ○愛知県・市町村人口問題対策検討会議（地域交通確保WG）

人口減少地域を抱える構成員（11市町村）、オブザーバー（22市町村）とともに、人口減少下における公共交通の課題と対応についての情報共有及び意見交換を実施。

### ○A I オンデマンド交通の社会実装に向けた実証実験の実施

瀬戸市において、隣接市を含む目的地までの運行を行う「チョイソコせとあさひ」を使った実証実験を実施。（実証期間：令和6年10月～令和7年1月）



### ○東三河地域MaaSの社会実装に向けた実証実験の実施

東三河地域において、Web版アプリ「いこまい」を使った実証実験を実施。（実証期間：令和6年10月～令和7年1月）



## <地域間幹線系統の評価>

### ○評価指標の設定

把握しやすく取組の成果がイメージしやすい年間利用者数を目標に設定

### ○評価の実施方法

系統ごとに調査票を作成し、運行主体により実績などを記載の上、沿線市町村に実施した利用促進の取組や所見を持ち回りで記載してもらう方式で情報集約を図った。

### ○評価指標の達成状況等

#### 《幹線系統全体の利用者数及び対前年推移別系統数》

R6年度	R5年度	増減率
5,588,514人	5,198,707人	7.5%増

利用者の増減区分	系統数
増加(105%~)	30(50)
横ばい(95~105%未満)	23(9)
小幅減(80~95未満)	8(0)
大幅減(80%未満)	2(5)

※カッコ書きは前年の数値。

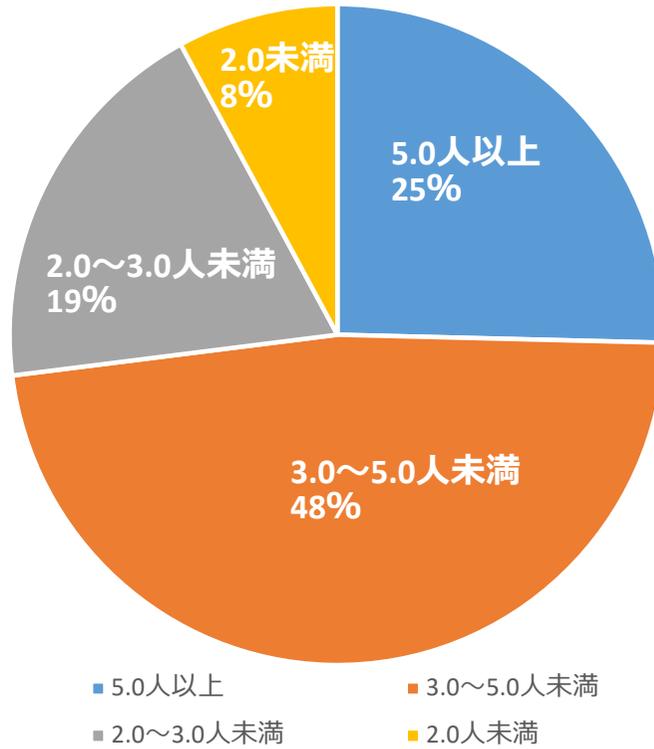
#### 《目標実績別評価系統数》

A評価	増加(100%~)	54(49)
B評価	減少(75~100%未満)	8(9)
	減少(50~75未満)	1(6)
C評価	半数減(50%未満)	0(0)

※カッコ書きは前年の数値。

- ◇ 幹線系統全体の利用者は、7.5%増となり、全体の利用者数は一定の回復傾向が見られた。
- ◇ 路線ごとに見ると、増加が30系統、横ばいが23系統となっており、多くの路線が前年度と比べ同程度以上の利用者数であった。
- ◇ 前年度に比べ利用者数が2割以上減少した2系統は路線再編・ダイヤ改正の影響と考えられる。

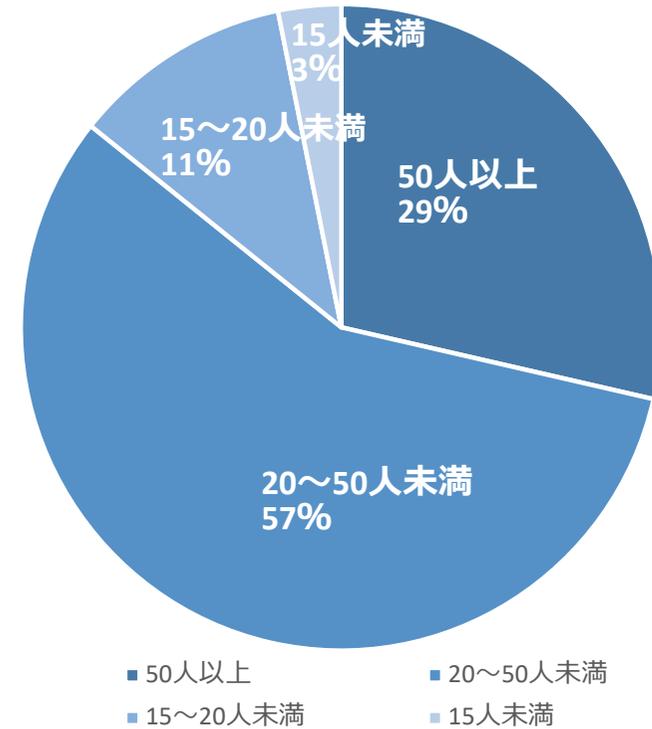
#### 系統別平均乗車密度



系統別平均乗車密度	
5.0(人)以上	16(13)
3.0~5.0(人)未満	30(29)
2.0~3.0(人)未満	12(14)
2.0(人)未満	5(8)

※カッコ書きは前年の数値

#### 系統別輸送量分布



系統別輸送量	
50(人/日)以上	18(16)
20~50(人/日)未満	36(35)
15~20(人/日)未満	7(9)
15(人/日)未満	2(4)

※カッコ書きは前年の数値

## ＜地域間幹線システムの確保・維持に関する課題＞

- 多くの系統が前年度と比べ同程度以上の利用者数であるものの、対前年比で増加している系統数は減少しており、新型コロナウイルスの影響による利用者減少からの戻りが収まりつつある。
- 輸送実績が減少している系統については、コロナ禍により変化したライフスタイル・交通ニーズに対応した路線の再編などの検討が必要。
- 人口減少が進む中で、地域からの人口流出に歯止めをかけるためには、日常生活や地域の交流を支えるため、幹線軸の維持・充実や地域内交通モードの最適化などが求められている。

## ＜対応方針＞

### ◆愛知県バス運行対策費補助金の拡充検討

- 広域的な移動を支える幹線軸の維持・充実を図るため、補助要件の一部を国に合わせるなど補助対象の拡大を検討。

### ◆地域内交通の最適な交通モードへの転換促進

- 公共交通ネットワークの機能維持・充実に向け、ワークショップ等において、市町村、交通事業者、地域住民等に助言を行い、公共ライドシェアの導入など最適な交通モードへの転換に向けた検討を促す。

### ◆関係者間による情報共有・連携の促進

- 愛知県・市町村人口減少問題対策会議（地域交通確保WG）、尾三地区広域公共交通推進会議、田口新城線活性化検討会、市町村地域公共交通会議など、様々な機会を通じて情報共有を図り、連携を促進する。
- 継続して、輸送実績が低い系統を中心に、運行事業者・沿線市町村との意見交換を実施し、並行路線も含めた路線網の見直しや利用促進策を検討。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	策定予定の愛知県地域公共交通計画に基づき、沿線自治体・関係事業者等と連携し、引き続き、地域間の公共交通ネットワークの確保維持に努められると共に、「まもる」から次の「たかめる」等についても取組が進むことを期待	地域間の公共交通ネットワークを強化し、公共交通の利便性を高めるため、地域を跨ぐA I オンデマンド交通や東三河地域M a a Sの社会実装に向けた実証実験を実施した。	地域間交通の課題解消に繋がり、利便性を高める新モビリティサービスの社会実装に向けた取組の実施、横展開を図り、導入を促進していく。
	地域間幹線系統の利用促進について、県が関与した取組や各市町村の取組で成果が見えた取組に関しては、その成果の「見える化」についても検討や取り組まれることを期待	県が実施した地域間幹線系統の利用促進について、成果を県ホームページに掲載した。	引き続き県が地域間幹線系統の利用促進を実施した際に成果を県ホームページに掲載することで「見える化」に取り組んでいく。
	地域間幹線系統の必要性やあり方、維持方策など県の考え等については、各市町村の協議会にて共有し、話し合い、その内容に応じて計画に反映される仕組みが計画に位置付けられることを期待	各市町村の地域公共交通会議において、地域間幹線系統の事業評価や県の施策等について共有し、話し合いを行った。	地域間幹線系統の必要性やあり方、維持方策など県の考え等については、引き続き各市町村の地域公共交通会議にて共有・話し合いを行い、計画の見直しの際にはその内容を踏まえて検討していく。
	地域間幹線系統の確保維持にあっては、運転者不足や運転者に係る働き方改革の動向も踏まえながらフォローアップされることを期待	あいち交通ビジョンフォローアップ会議を開催し、運転手不足や運転者に係る働き方改革の動向を踏まえた取組の実施状況と今後の課題を共有した。	取組の実施状況と共有した課題を基に、今後の取組について検討していく。
前々回	生活交通の確保維持に向け、沿線自治体、関係事業者との幹線系統等の情報共有及び連携した取組の実施、輸送実績が昨年度より減少した系統が多く存在する交通圏において一層の連携を深めることを期待	令和4年2月に策定した「あいち交通ビジョン」のモデル事業として、日進市、東郷町、みよし市、名鉄バス等と連携して、利用促進キャンペーンを実施し、実績や効果分析について、尾三地区広域公共交通推進会議で市町村等へ報告した。	引き続き沿線自治体、関係事業者との幹線系統等の情報共有及び連携した取組を実施していく。
	愛知県地域公共交通計画の策定に向け、具体的な策定方針を関係者に早めにオープンするとともに、県として確保維持、活性化していく公共交通ネットワークの検討をスケジュールに注意し進められることを期待	愛知県地域公共交通協議会を設置し、「安心・便利な暮らしと、活発な経済活動を支える地域公共交通の維持・充実」を目指す公共交通像として、令和6年6月に愛知県地域公共交通計画を策定した。	愛知県地域公共交通計画に掲げた「安心・便利な暮らしと、活発な経済活動を支える地域公共交通の維持・充実」を目指し、計画に位置付けた施策に取り組んでいく。
	施策が路線の維持に大きく影響するのみならず、人口の地域分布、年齢構成に影響することも熟慮し、地域公共交通計画を検討されることを期待。	人口の地域分布、年齢構成を分析した結果を踏まえ、令和6年6月に愛知県地域公共交通計画を策定した。	愛知県地域公共交通計画に位置付けた、県民の暮らしを支える移動手段である鉄道や路線バスの維持・充実、地域のニーズに応じた新たな交通サービスの支援などに取り組んでいく。

※前回：令和6年2月14日、前々回：令和5年2月15日

## <協議会の実施状況>

### ◆令和6年度第1回愛知県公共交通協議会バス対策部会

日時：令和6年6月4日（火）

議題：①令和7年度地域間幹線系統への位置付け申し出路線に係る対応案について  
②愛知県地域公共交通計画別紙（令和7年度）の策定について

### ◆令和6年度第1回愛知県公共交通協議会

日時：令和6年6月4日（火）

議題：①愛知県地域公共交通計画の策定について

### ◆令和6年度第2回愛知県公共交通協議会バス対策部会（書面開催）

日時：令和6年8月20日（金）

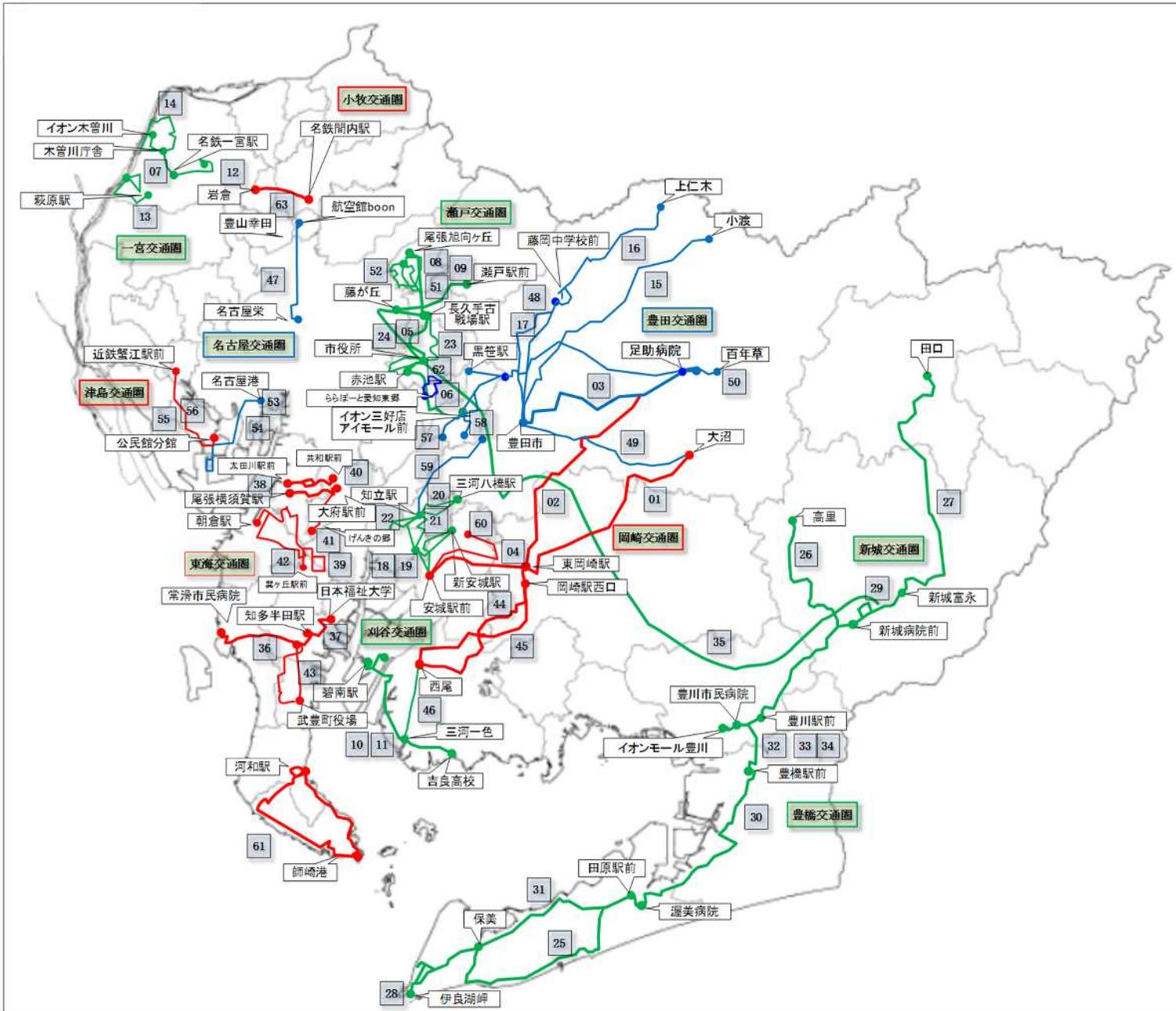
議題：①令和6年度愛知県地域間幹線系統確保維持計画の変更について  
②令和7年度愛知県地域公共交通計画別紙の変更について

### ◆令和6年度第3回愛知県公共交通協議会バス対策部会

日時：令和7年1月15日（水）

議題：①令和6年度愛知県地域間幹線系統確保維持計画に係る事業評価について  
②令和7年度愛知県地域公共交通計画別紙の変更について

# 令和6年度 愛知県 地域間幹線系統路線一覧



交通圏	番号	系統名	輸送量
01名古屋	47	タウンバス(南ルート)	34.1
	53	飛島公共交通バス(名港線①)	31.6
	54	飛島公共交通バス(名港線②)	17.5
02豊橋	25	伊良湖支線(福祉C堀切)	20.2
	28	伊良湖本線(渥美病院休眠村明神)	29.1
	29	新豊	35.8
	30	伊良湖本線(豊橋保美)	24.4
	31	伊良湖本線(渥美病院田原駅前保美)	27.6
	32	豊川(体育館前)	31.2
	33	豊川(イオン病院)	27.8
34	豊川(イオンモール豊川)	30.0	
03岡崎	01	大沼	17.3
	02	岡崎・足助	36.3
	04	岡崎・安城	24.6
	44	岡崎・西尾(青野)	66.7
	45	岡崎・西尾(西尾市民病院)	31.9
04一宮	60	あんくるバス(東部線)	35.1
	07	一宮・イオン木曾川	32.5
	12	i-バス(一宮コース)	37.8
	13	i-バス(尾西南コース)	32.0
05瀬戸・日進・豊明	14	i-バス(木曾川・北方コース)	15.3
	05	日進中央	60.0
	06	星ヶ丘・豊田	16.9
	08	愛知医科大学病院	23.2
	09	本地ヶ原	41.3
	23	くるりんばす(梅森線)	11.6
	24	くるりんばす(五色園線)	18.0
06東海・半田・大府・常滑・美浜	51	尾張旭市営バス(東ルート)	78.5
	52	尾張旭市営バス(西ルート)	92.1
	62	じゅんかい君(北コース)	51.3
	36	半田・常滑(A)	33.8
	37	半田・常滑(N)	19.8
	38	横須賀(A)	45.1
	39	東ヶ丘団地	27.7
	40	上野台	97.8
	41	大府	45.0
	42	あいあいバス(北部循環コース)	28.4
07小牧・犬山・江南	61	海っ子バス(南知多・美浜環状線)	130.8
	43	ゆめこころん(赤ルート)	63.9
	63	岩倉	20.4
08津島・あま・弥富	55	飛島公共交通バス(蟹江線①)	72.0
	56	飛島公共交通バス(蟹江線②)	18.5
09刈谷・安城・碧南・西尾	10	ふれんどバス①	40.8
	11	ふれんどバス②	50.4
	18	あんくるバス(西部線)	60.9
	19	あんくるバス(作野線)	61.6
	20	ミニバス(2コース)	20.4
	21	ミニバス(3コース)	71.0
	22	ミニバス(4コース)	25.4
	46	一色	44.1
	03	矢並	42.1
	15	おいでんバス(旭・豊田線)	34.5
10豊田	16	おいでんバス(小原・豊田線)	71.9
	17	おいでんバス(藤岡・豊田線(西中山経由))	45.6
	48	おいでんバス(藤岡・豊田線(加納経由))	46.3
	49	おいでんバス(下山・豊田線)	80.0
	50	おいでんバス(さなげ・足助線)	71.2
	57	さんさんバス(拠点連携線)	65.6
	58	さんさんバス(三好黒世線)	105.0
	59	高岡ふれあいバス(路線②)	38.2
11新城	26	作手	20.7
	27	新城上平井田口	18.6
	35	新城名古屋藤が丘	20.0

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

協議会名：愛知県公共交通協議会 バス対策部会

評価対象事業名：陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）

交通圏	①補助対象事業者等		②事業概要		③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点（特記事項を含む）			
	運営主体	運行事業者	No.、系統名	運行区間			【計画目標指標：利用者数】 A：達成 B：未達成 C：目標の半額にも満たず	輸送量(人)				収支率(%)					
								R6計画	R6実績	平均乗車密度	運行回数	R5実績			R6実績		
01名古屋	豊山町	あおい交通(株)	47	タウンバス(南ルート)	航空館boon(豊山町)～名古屋栄(名古屋市)	・高齢者割引、タウンバス1日無料デーを実施 ・公共交通マップを主要施設等で配布、転入者への配布を実施	A 計画通りの運行が実施されている。	A	目標61000 実績67979 達成率111.4%	23.0	34.1	3.1	11.7	40.9	41.9	市町を跨いでの利用がほとんどを占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。豊山町民の名古屋市への利用の他、名古屋市から豊山町への通勤での利用があると考えられる。	・広報やHP、町主催イベントや出前講座等の機会を通じて公共交通のPR ・利用者ニーズに対応した改善や見直し ・交通エコライフの取組促進を継続
01名古屋 08津島・あま・弥富	飛鳥村	三重交通(株)	53	飛鳥公共交通バス(名港線①)	名古屋港～名古屋港(循環)	・運行事業者や関係自治体をはじめ、名古屋港西部臨海地帯企業連絡協議会等との協議	A 計画通りの運行が実施されている。	A	目標46000 実績54953 達成率119.5%	28.8	31.6	4.4	7.2	34.3	33.4	臨海地域の企業従業員及び企業への訪問者が利用客の大半を占め、最寄り名古屋市内の各駅と飛鳥村とを結ぶ重要な広域的路線である。名古屋から飛鳥村への通勤手段として利用されている。	・アンケート調査に基づく増便、ダイヤ改正など様々な利便性向上策の検討 ・交通エコライフの取組促進
01名古屋 08津島・あま・弥富	飛鳥村	三重交通(株)	54	飛鳥公共交通バス(名港線②)	公民館分館～名古屋港	・運行事業者や関係自治体をはじめ、名古屋港西部臨海地帯企業連絡協議会等との協議	A 計画通りの運行が実施されている。	B1	目標46000 実績45600 達成率99.1%	15.3	17.5	3.9	4.5	34.3	33.4	臨海地域の企業従業員及び企業への訪問者が利用客の大半を占め、最寄り名古屋市内の各駅と飛鳥村とを結ぶ重要な広域的路線である。名古屋から飛鳥村への通勤手段として利用されている。	・アンケート調査に基づく増便、ダイヤ改正など様々な利便性向上策の検討 ・交通エコライフの取組促進
02豊橋	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	25	伊良湖支線(福祉C掘切)	渥美病院～保美	・技能実習生を対象とした多言語チラシの作成 ・観光客向け企画切符の作成 ・市内高校生への通学定期券の購入助成を実施 ・観光地への路線延長の検討	A 計画通りの運行が実施されている。	A	目標35164 実績47245 達成率134.4%	13.7	20.2	2.5	8.1	30.2	31.8	旧町を跨いでの利用が利用者のほとんどを占め、広域的な路線の役割を果たしている。起点にある渥美病院への通院や田原駅への鉄道利用者や沿線高校への通学利用者が大部分と考えられる。日中は高齢者の渥美病院等への通院や外国人住民の田原市街地での買い物で利用されている。	・企画切符の作成 ・周辺観光地への延伸 ・令和6年度末に導入予定の交通系ICカードのPR ・市内高校生への通学定期券の購入助成を継続、助成額の再検討 ・中・高校生を対象としたパンフレット配布 ・サイクルラックバスの実証実験 ・地域住民等との意見交換
02豊橋	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	28	伊良湖本線(渥美病院休暇村明神)	渥美病院～伊良湖岬	・技能実習生を対象とした多言語チラシの作成 ・観光客向け企画切符の作成 ・市内高校生への通学定期券の購入助成を実施	A 計画通りの運行が実施されている。	A	目標59878 実績64170 達成率107.2%	24.1	29.1	2.8	10.4	31.9	35.7	旧町を跨いでの利用が利用者のほとんどを占め、広域的な路線の役割を果たしている。起点にある渥美病院への通院や田原駅への鉄道利用者や沿線高校への通学利用者が大部分と考えられる。日中は高齢者の渥美病院等への通院や外国人住民の田原市街地での買い物で利用されている。	・企画切符の作成 ・技能実習生を対象とした多言語チラシや利用即券パンフレットの配布 ・令和6年度末に導入予定の交通系ICカードのPR ・市内高校生への通学定期券の購入助成を継続、助成額の再検討 ・中・高校生を対象としたパンフレット配布 ・サイクルラックバスの実証実験

①補助対象事業者等		②事業概要		③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点(特記事項を含む)					
						【計画目標指標:利用者数】 A:達成 B:未達成 C:目標の半数にも満たず	輸送量(人)			収支率(%)								
運営主体	運行事業者	No.、系統名	運行区間				R6計画	R6実績	平均乗車密度	運行回数	R5実績	R6実績						
交通圏																		
02豊橋 11新城	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	29	新豊	豊橋駅前 ～ 新城富永	・公共交通イベントで交通系ICカードの導入を見据えた乗り方教室を実施 ・公共交通マップを作成し、市内主要施設、観光案内所、公共交通イベント等での配布、HP掲載等で周知 ・市バスマップに新豊線の時刻表を掲載し、配布 ・「マイバス時刻表」を継続して実施	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標114492 実績139809 達成率122.1% 定期外利用者が増加した。	27.2	35.8	3.9	9.2	43.5	37.7	市を跨いでの利用が利用者の約26.8%を占め、広域的な路線の役割を果たしている。新城市から乗り換えとして豊川市民病院や大型商業施設へ行くことができる路線であるため、豊橋市、豊川市相互間の通勤利用者、大型商業施設等への買い物や豊川市民病院への通院利用者が大部分と考えられる。	・令和6年度末に導入予定の交通系ICカードのPR ・MaaS推進によるデジタル環境の充実の取り組みを実施 ・路線市、運行事業者と協力し、継続した公共交通利用促進
02豊橋	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	30	伊良湖本線(豊橋保美)	豊橋駅前 ～ 保美	・技能実習生を対象とした多言語チラシの作成 ・観光客向け企画切符の作成 ・公共交通マップを作成し、市内主要施設、観光案内所、公共交通イベント等での配布、HP掲載等で周知 ・市内高校生への通学定期券の購入助成を実施	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標58266 実績61486 達成率139.9% 定期外利用者が増加した。	18.4	24.4	3.1	7.9	32.1	34.6	旧町を跨いでの利用が利用者のほとんどを占め、広域的な路線の役割を果たしている。起点にある渥美病院への通院や田原駅への鉄道利用者や沿線高校への通学利用者が大部分と考えられるほか、主に豊橋市内で完結する通勤、買い物、通院などの移動手段となっている。日中は高齢者の渥美病院等への通院や外国人住民の田原市街地での買い物で利用されている。	・企画切符の作成 ・技能実習生を対象とした多言語チラシや利用即券パンフレットの配布 ・令和6年度末に導入予定の交通系ICカードのPR ・MaaS推進によるデジタル環境の充実の取り組みを実施 ・市内高校生への通学定期券の購入助成を継続、助成額の再検討 ・中・高校生を対象としたパンフレット配布 ・サイクルラックバスの実証実験
02豊橋	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	31	伊良湖本線(渥美病院田原駅前保美)	渥美病院 ～ 保美	・技能実習生を対象とした多言語チラシの作成 ・観光客向け企画切符の作成 ・市内高校生への通学定期券の購入助成を実施	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標50670 実績53344 達成率105.3% 定期外利用者が増加した。	23.8	27.6	4.0	6.9	53.5	55.2	旧町を跨いでの利用が利用者の多くを占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。起点にある渥美病院への通院や田原駅への鉄道利用者や、沿線高校への通学利用者が大部分と考えられる。日中は高齢者の渥美病院等への通院や外国人住民の田原市街地での買い物で利用されている。	・企画切符の作成 ・技能実習生を対象とした多言語チラシや利用即券パンフレットの配布 ・令和6年度末に導入予定の交通系ICカードのPR ・市内高校生への通学定期券の購入助成を継続、助成額の再検討 ・中・高校生を対象としたパンフレット配布 ・サイクルラックバスの実証実験
02豊橋	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	32	豊川(体育館前)	豊橋駅前 ～ 豊川体育館前	・公共交通イベントで交通系ICカードの導入を見据えた乗り方教室を実施 ・公共交通マップを作成し、市内主要施設、観光案内所、公共交通イベント等での配布、HP掲載等で周知 ・市バスマップに新豊線の時刻表を掲載し、配布	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標31792 実績56800 達成率178.7% 定期外利用者が増加した。	14.3	31.2	4.8	6.5	78.3	91.0	市を跨いでの利用が利用者の約3割を占め、広域的な路線の役割を果たしている。豊橋市、豊川市相互間の通勤利用者が大部分と考えられ、その他にも豊橋市・豊川市相互間への買い物、通院などの移動手段となっている。	・令和6年度末に導入予定の交通系ICカードのPR ・MaaS推進によるデジタル環境の充実
02豊橋	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	33	豊川(イオン病院)	豊橋駅前 ～豊川市民病院 ～イオンモール豊川 ～豊川駅前	・公共交通イベントで交通系ICカードの導入を見据えた乗り方教室を実施 ・公共交通マップを作成し、市内主要施設、観光案内所、公共交通イベント等での配布、HP掲載等で周知 ・市バスマップに新豊線の時刻表を掲載し、配布	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標74673 実績88452 達成率118.5% 定期外利用者が増加した。	21.5	27.8	3.4	8.2	50.6	53.6	市を跨いでの利用が利用者の約3割を占め、広域的な路線の役割を果たしている。豊橋市、豊川市相互間の通勤利用者が大部分と考えられ、その他にも豊橋市・豊川市相互間への買い物、通院などの移動手段となっている。	・令和6年度末に導入予定の交通系ICカードのPR ・MaaS推進によるデジタル環境の充実
02豊橋	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	34	豊川(イオンモール豊川)	豊橋駅前 ～ イオンモール豊川	・公共交通イベントで交通系ICカードの導入を見据えた乗り方教室を実施 ・公共交通マップを作成し、市内主要施設、観光案内所、公共交通イベント等での配布、HP掲載等で周知 ・市バスマップに新豊線の時刻表を掲載し、配布	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標53907 実績61606 達成率114.3% 定期外利用者が増加した。	22.1	30.0	3.8	7.9	68.2	60.7	市を跨いでの利用が利用者の約4割を占め、広域的な路線の役割を果たしている。豊橋市、豊川市相互間の通勤利用者が大部分と考えられ、その他にも豊橋市・豊川市相互間への買い物、通院などの移動手段となっている。	・令和6年度末に導入予定の交通系ICカードのPR ・MaaS推進によるデジタル環境の充実

①補助対象事業者等		②事業概要		③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点(特記事項を含む)							
						【計画目標指標:利用者数】		輸送量(人)		収支率(%)										
						A:達成	B:未達成	R6計画	R6実績	平均乗車密度	運行回数			R5実績	R6実績					
交通圏	03岡崎 10豊田	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	1	大沼	名鉄東岡崎駅 ～ 岡崎北高前 ～ 大沼	・HP、CentXなどのスマートフォンで時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・岡崎市公共交通マップの作成・配布	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標40450 実績50636 達成率125.2%	新型コロナウイルスの影響が希薄になり、移動需要が回復してきたことによる。	14.0	17.3	3.1	5.6	32.1	32.7	両市を跨ぐ利用者の内訳は、通勤0.0%、通学2.0%、ゴート・シブーバスを利用する高齢者50.0%、現金、ICSFの定期外48.0%となっている。東岡崎駅の利用者、中心市街地への買物等のための利用者が大部分と考えられる。市町村を跨いでの利用者数は、36.0%になった(昨年度比較17.4%増)。3年連続で増えており、豊田市から岡崎市への移動手段としての役割が徐々に大きくなっている。	・HP、スマートフォンでの路線・時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの情報提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPR ・岡崎市公共交通マップの作成・配布 ・豊田市バスマップ、市HPに路線情報を掲載
		名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	2	岡崎・足助	名鉄東岡崎駅 ～ 細川 ～ 足助	・HP、CentXなどのスマートフォンで時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・岡崎市公共交通マップの作成・配布	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標114582 実績143696 達成率125.4%	新型コロナウイルスの影響が希薄になり、移動需要が回復してきたことによる。	26.8	36.3	4.6	7.9	44.9	45.0	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期26.5%、通学定期17.6%、ゴート・シブーバスを利用する高齢者20.6%、現金、ICSFの定期外35.3%。香嵐渓への観光目的の利用も多い。市町村を跨いでの利用者は増加していることから、通勤・通学・高齢者と幅広い層で、豊田市から岡崎市への移動手段として重要な役割を果たしている。	・HP、スマートフォンでの路線・時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの情報提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPR ・岡崎市公共交通マップの作成・配布 ・豊田市バスマップ、市HPに路線情報を掲載
03岡崎 09刈谷・安城・碧南・西尾	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	4	岡崎・安城	名鉄東岡崎駅 ～ 矢作橋 ～ JR安城駅	・HP、CentXなどのスマートフォンで時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・岡崎市公共交通マップの作成・配布	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標38204 実績60224 達成率157.6%	新型コロナウイルスの影響が希薄になり、移動需要が回復してきたことによる。	15.9	24.6	2.0	12.3	33.2	32.3	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期8.0%、通学定期2.7%、ゴート・シブーバスを利用する高齢者20.0%、現金、ICSFの定期外69.3%。高齢者による東岡崎駅や安城駅、沿線にある病院、中心市街地への利用が大部分と考えられる。直近の利用状況調査では通勤利用の割合が最も高い状況であった。	・HP、スマートフォンでの路線・時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの情報提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPR ・時刻表、バスマップ、公共交通活用ガイド冊子等の掲載 ・集客が見込まれる施設へのアクセスが可能となる路線変更を検討	
03岡崎 09刈谷・安城・碧南・西尾	名鉄東部交通(株)	名鉄東部交通(株)	44	岡崎・西尾(青野)	東岡崎(藤田医大) ～ 下青野 ～ 西尾	・令和6年1月4日及び4月1日にダイヤ改正を実施 ・車内美化や換気を行うとともに、定時運転確保や安全運転 ・岡崎市公共交通マップの作成・配布	A	令和6年1月25日の大雪による運休以外の運休はなかった。	A	目標123840 実績163437 達成率132.0%	新型コロナウイルスの影響が希薄になり、移動需要が回復してきたことによる。	46.1	66.7	4.2	15.9	53.1	48.2	東岡崎駅からJR岡崎駅を経由してあるいは藤田医大からJR岡崎駅を経由して西尾市中心部へ至る市域を跨ぐ路線であり、地域住民の日常生活における交通手段を確保している。通勤・通学等の移動手段としての利用や、岡崎市の沿線商業施設への利用など広域的な利用も見られる。	・道路状況の把握に努め、定時運行確保する ・藤田医大系統、東岡崎系統の両方についてダイヤ等の検討 ・岡崎市公共交通マップの作成・配布を継続 ・公共交通利用講座で路線をPR ・運行利便性向上、利用促進策について、運行主体、関係市と継続して協議	
03岡崎 09刈谷・安城・碧南・西尾	名鉄東部交通(株)	名鉄東部交通(株)	45	岡崎・西尾(西尾市民病院)	岡崎駅西口 ～ 西尾市民病院 ～ 西尾	・令和6年1月4日及び4月1日にダイヤ改正を実施 ・車内美化や換気を行うとともに、定時運転確保や安全運転 ・岡崎市公共交通マップの作成・配布	A	令和6年1月25日の大雪による運休以外の運休はなかった。	A	目標78423 実績80824 達成率103.1%	新型コロナウイルスの影響が希薄になり、移動需要が回復してきたことによる。	33.0	31.9	2.8	11.4	51.7	38.5	東岡崎駅からJR岡崎駅を経由してあるいは藤田医大からJR岡崎駅を経由して西尾市中心部へ至る市域を跨ぐ路線であり、地域住民の日常生活における交通手段を確保している。通勤・通学等の移動手段としての利用や、岡崎市の沿線商業施設への利用など広域的な利用も見られる。	・道路状況の把握に努め、定時運行確保する ・藤田医大系統、東岡崎系統の両方についてダイヤ等の検討 ・岡崎市公共交通マップの作成・配布を継続 ・公共交通利用講座で路線をPR ・運行利便性向上、利用促進策について、運行主体、関係市と継続して協議	
03岡崎 09刈谷・安城・碧南・西尾	安城市	東伸運輸(株)	60	あんくるバス(東部線)	北部福祉センター ～ JR安城駅 ～ 北部福祉センター	・運行事業者、地元高校生と連携したあんくるバスの行動プラン作りなど新しい利用促進策を検討 ・岡崎市公共交通マップの作成・配布 ・外国版の時刻表・マップの作成 ・バスロケーションシステムによる情報提供 ・多客時に主要バスへのバス案内人の配置	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標27500 実績32818 達成率119.3%	新型コロナウイルスの影響が希薄になり、移動需要が回復してきたことによる。	26.9	35.1	5.1	6.9	19.6	17.7	市を跨ぐ利用者は289人/月と想定され、広域的な路線として役割を果たしている。利用者は名数本線へ乗換し、飲食・娯楽等のためお出掛け利用者が多い。安城市内の病院の利用やJR安城駅の通勤・通学に利用されている。	・地元高校生と連携した利用促進 ・まちかど講座や勉強会を通じ、公共交通に対する意識の醸成 ・岡崎市公共交通マップの作成・配布	

交通圏	①補助対象事業者等		②事業概要		③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
	運営主体	運行事業者	No.、系統名	運行区間			【計画目標指標:利用者数】 A:達成 B:未達成 C:目標の半数にも満たず	輸送量(人)			収支率(%)				
								R6計画	R6実績	平均乗車密度	運行回数	R5実績			R6実績
04一宮	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	7 一宮・イオン木曽川	一宮駅 ～ 木曽川庁舎 ～ イオンモール木曽川	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・一宮駅構内バスのりば案内の更新 ・バスマップの更新・配布 ・一宮おでかけバス手形の発売 ・期間限定でi-バス65・i-バス70の購入補助を実施	A 計画通りの運行が実施されている。	A 目標57687 実績76310 達成率132.3%	25.2	32.5	3.1	10.5	41.1	41.0	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期0.6%、通学定期0.0%、i-バス・i-バスを利用する高齢者18.7%、現金、ICSFの定期外80.7%。一宮駅の利用者、大型商業施設への買物のための利用者が大部分と考えられる。	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPR ・バスマップの配布 ・「一宮おでかけバス手形」の発行、デジタルチケットの販売
04一宮	一宮市	名鉄バス(株)	12 i-バス(一宮コース)	木曽川庁舎 ～ 一宮駅 ～ 市民病院	・一宮駅構内バスのりば案内やバスマップの更新・配布 ・企画切符の継続発売 ・GTFSデータの最新情報管理 ・予約制乗合タクシー(i-バスミニ)の継続運行によるバスの利便性の向上	A 計画通りの運行が実施されている。	A 目標65826 実績82827 達成率134.1%	29.8	37.8	3.6	10.5	33.4	33.9	市を跨ぐ利用者は1,871人/月と推定され、広域的な路線の役割を果たしている。利用者は、通院及び一宮駅への利用が大部分と考えられる。	・バスマップの配布 ・1日乗車券等企画切符発行の継続 ・高齢者や小学生向けにバスの乗り方教室等PR ・バスを利用した施設案内チラシ等の充実 ・小中学生を対象に期間限定の無料フリーバスを配布 ・デジタルチケットの販売
04一宮	一宮市	名鉄バス(株)	13 i-バス(尾西南コース)	萩原駅 ～ 医療療育センター ～ 萩原駅	・バスマップの更新・配布 ・企画切符の継続発売 ・GTFSデータの最新情報管理 ・予約制乗合タクシー(i-バスミニ)の継続運行によるバスの利便性の向上	A 計画通りの運行が実施されている。	B1 目標33417 実績33101 達成率99.1% 尾西記念病院が閉院し、医療療育センターへ移行したことにより、利用者が減少した。	31.2	32.0	4.0	8.0	11.8	11.4	市を跨ぐ利用者は、468人/月と推定され、広域的な路線の役割を果たしている。利用者は、萩原駅や公共施設への利用、他のバスコースへの乗継ぎが大部分と考えられる。	・バスマップの配布 ・1日乗車券等企画切符発行の継続 ・高齢者や小学生向けにバスの乗り方教室等PR ・バスを利用した施設案内チラシ等の充実 ・小中学生を対象に期間限定の無料フリーバスを配布 ・デジタルチケットの販売
04一宮	一宮市	名鉄バス(株)	14 i-バス(木曽川・北方コース)	木曽川庁舎 ～ 木曽川市民病院 ～ 木曽川庁舎	・バスマップの更新・配布 ・企画切符の継続発売 ・GTFSデータの最新情報管理 ・予約制乗合タクシー(i-バスミニ)の継続運行によるバスの利便性の向上	A 計画通りの運行が実施されている。	A 目標14711 実績16929 達成率115.1%	11.4	15.3	1.7	9.0	8.9	9.1	市町を跨ぐ利用者は、288人/月と推定され、広域的な路線の役割を果たしている。利用者は、鉄道駅の利用、大型ショッピングセンターへの買い物、他のバスコースへの乗継ぎ、通院が大部分と考えられる。	・バスマップの配布 ・1日乗車券等企画切符発行の継続 ・高齢者向け等バスの乗り方教室等PR ・バスを利用した施設案内チラシ等の充実 ・小中学生を対象に期間限定の無料フリーバスを配布 ・デジタルチケットの販売 ・住民懇談会の実施 ・バス路線やダイヤの見直し検討
05瀬戸・日進・豊明	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	5 日進中央	赤池駅 ～ 日進市役所 ～ 長久手古戦場駅	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・市HPでの本路線の周知 ・公共交通ガイドブックを作成、配布 ・市イベント等でのチラシ配布 ・尾三地区合同のバスイベントを実施	A 計画通りの運行が実施されている。	B1 目標123820 実績121657 達成率98.3% 目標は未達成であるものの、新型コロナウイルスの影響が希薄になり、移動需要が回復してきたことにより、目標に近い利用者数となった。	57.0	60.0	4.0	15.0	59.4	54.4	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期13.2%、通学定期15.4%、i-バス・i-バスを利用する高齢者1.1%、現金、ICSFの定期外70.3%。日進市・青西部の赤池駅と北部の長久手古戦場駅を結び、住民の南北移動の軸となっている。交通拠点を結ぶ他、コミュニティバスとも接続し、幹線として重要な役割を担う路線である。	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPR ・赤池駅、高齢者利用促進策を展開 ・イベントの開催 ・情報紙の発行
05瀬戸・日進・豊明	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	6 星ヶ丘・豊田	赤池駅 ～ 御岳 ～ イオン三好店アイモール前	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・時刻表を市役所窓口等で配布 ・近隣市町が実施した本路線利用促進イベントの周知 ・東郷町、名鉄バス網及びみよし市が連携してバス利用促進イベント(車両展示、乗車体験等)を実施 ・沿線の商業施設と連携した利用促進モデル事業を実施	A 計画通りの運行が実施されている。	B1 目標35357 実績34967 達成率98.9% 新型コロナウイルスの影響が希薄になり、移動需要が回復してきたことにより、目標に近い利用者数となった。	15.6	16.9	2.6	6.5	41.0	37.0	市町域を跨ぐ内訳は、通勤27.7%、通学1.0%、i-バス・i-バスを利用する高齢者8.9%、現金、ICSFの定期外62.4%。大型商業施設への買い物移動需要を支える他、赤池駅に接続することにより、広域移動を確保する重要な路線である。	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPR ・赤池駅、高齢者利用促進策を展開 ・市HP、広域等を用い、本路線のPRの実施 ・ショッピングセンター内にバスマップを設置 ・商業施設や近隣市と連携してバス利用促進イベントや周知啓発を実施

交通圏	①補助対象事業者等		②事業概要		③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点(特記事項を含む)				
	運営主体	運行事業者	No.、系統名	運行区間			【計画目標指標:利用者数】 A:達成 B:未達成 C:目標の半数にも満たず	輸送量(人)			収支率(%)							
								R6計画	R6実績	平均乗車密度	運行回数	R5実績			R6実績			
05瀬戸・日進・豊明	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	8 愛知医科大学病院	長久手古戦場駅 ～ 愛知医科大学病院 ～ 尾張旭向ヶ丘	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・市主催イベントや市内商業施設等でルートマップや時刻表を配布	A	計画通りの運行が実施されている。	目標46141 実績65263 達成率141.4%	A	新型コロナウイルスの影響が希薄になり、移動需要が回復してきたことによる。	15.0	23.2	2.0	11.6	28.3	31.6	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期7.2%、通学定期11.3%、ロード・シルバーパスを利用する高齢者4.1%、現金、ICSFの定期外77.3%。尾張旭市駅と長久手古戦場駅を結ぶ路線であり、長久手高校への通学、愛知医大への通院など、住民の南北への移動の軸となっている。交通結節点同士を結んでおり、幹線として重要な役割を担う路線である。	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・高齢者用定期券ゴールド・シルバーパスのPR ・HP、市広報、市主催のイベントでの利用周知 ・情報紙の発行
	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	9 本地ヶ原	藤が丘 ～ 愛知医科大学病院 ～ 瀬戸駅前	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・市主催のイベントや市内商業施設、転入者用パンフレットへの同封等でルートマップや時刻表を配布	A	計画通りの運行が実施されている。	目標78689 実績118672 達成率150.8%	A	新型コロナウイルスの影響が希薄になり、移動需要が回復してきたことによる。	31.5	41.3	5.1	8.1	69.3	69.2	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期2.5%、通学定期20.8%、ロード・シルバーパスを利用する高齢者6.3%、現金、ICSFの定期外70.3%。瀬戸市長、尾張旭市民、長久手市長の名古屋市内や愛知医大への移動手段としての利用が考えられ、名古屋市内から愛知医大への通院利用が多い状況にある。沿線住民の鉄道駅への接続及び通院や買物の足としても利用されている。交通結節点同士を結んでおり、幹線として重要な役割を担う路線である。	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・高齢者用定期券ゴールド・シルバーパスのPR ・交通エコライフの取組促進 ・チャイソコとあさひの社会実験による乗継確保 ・HPやコミュニティバス車内で乗継情報等の周知 ・HP、市広報、市主催イベントでの利用周知 ・情報紙の発行
05瀬戸・日進・豊明	日進市	名鉄バス(株)	23 -1 くるりんばす(梅森線) 【R6.3.31まで】	日進市役所 ～ 東名古屋病院 ～ 日進市役所	・乗降調査、アンケート、ワークショップ等の各種調査結果等をもとに、朝夕便の設定、双方向運行対応、運行便数の増加等、利便性の向上を目的に改正内容を取りまとめ、令和6年4月に路線改正を実施。	A	計画通りの運行が実施されている。	目標17784 実績16349 達成率91.9%	B1	高齢者が主な利用者層のため、新型コロナウイルスの5類感染症への移行後についても移動需要が回復せず、コロナ前と比較し利用者が低迷している。	12.6	11.6	1.2	9.7	13.7	12.1	本路線のみにより市町村を跨ぐ移動を行う利用者は全体の6%程度である。しかし、本路線は日進市西部と名古屋市宮地下鉄鶴舞線平針駅及び赤池駅を結ぶ路線であり、多数の利用者が鉄道を利用した市町村を跨ぐ移動を行っているため、市域を超えた移動を支える非常に重要な路線である。日進市民の赤池駅への移動手段のほか、東名古屋病院への通院利用があると考えられる。	・市内の75歳以上を対象とした「くるりんばす利用料金の優待サービス」の実施 ・乗り方教室の開催 ・交通エコライフの取組促進
05瀬戸・日進・豊明	日進市	名鉄バス(株)	23 -2 くるりんばす(梅森線) 【R6.4.1から】	日進市役所 ～ 東名古屋病院 ～ 赤池駅	・乗降調査、アンケート、ワークショップ等の各種調査結果等をもとに、朝夕便の設定、双方向運行対応、運行便数の増加等、利便性の向上を目的に改正内容を取りまとめ、令和6年4月に路線改正を実施。	A	計画通りの運行が実施されている。	目標8224 実績6390 達成率77.2%	B1	高齢者が主な利用者層のため、新型コロナウイルスの5類感染症への移行後についても移動需要が回復せず、コロナ前と比較し利用者が低迷している。	4.0	2.4	0.6	4.0	13.7	9.0	本路線のみにより市町村を跨ぐ移動を行う利用者は全体の11%程度である。しかし、本路線は日進市西部と名古屋市宮地下鉄鶴舞線平針駅及び赤池駅を結ぶ路線であり、多数の利用者が鉄道を利用した市町村を跨ぐ移動を行っているため、市域を超えた移動を支える非常に重要な路線である。日進市民の赤池駅への移動手段のほか、東名古屋病院への通院利用があると考えられる。	・市内の75歳以上を対象とした「くるりんばす利用料金の優待サービス」の実施 ・乗り方教室の開催 ・交通エコライフの取組促進
05瀬戸・日進・豊明	日進市	名鉄バス(株)	24 -1 くるりんばす(五色園線) 【R6.3.31まで】	市役所 ～ 長久手古戦場駅 ～ 市役所	・乗降調査、アンケート、ワークショップ等の各種調査結果等をもとに、朝夕便の設定、双方向運行対応、運行便数の増加等、利便性の向上を目的に改正内容を取りまとめ、令和6年4月に路線改正を実施。 ・尾三地区合同のバスイベントを実施	A	計画通りの運行が実施されている。	目標30649 実績30058 達成率98.1%	B1	高齢者が主な利用者層のため、新型コロナウイルスの5類感染症への移行後についても移動需要が回復せず、コロナ前と比較し利用者が低迷している。	18.4	18.0	1.8	10.0	14.5	12.8	全体の約7割が市をまたぐ利用であり、交通結節点である長久手古戦場駅と本市東部を結ぶ非常に重要な路線である。 長久手市をはじめ、名古屋市や豊田市への通勤・通学・通院・買い物の足として幅広く利用され、市域を超えた移動を支える非常に重要な路線である。	・市内の75歳以上を対象とした「くるりんばす利用料金の優待サービス」の実施 ・乗り方教室の開催 ・イベントの開催 ・情報紙の発行
05瀬戸・日進・豊明	日進市	名鉄バス(株)	24 -2 くるりんばす(五色園線) 【R6.4.1から】	市役所 ～ 五色園 ～ 市役所	・乗降調査、アンケート、ワークショップ等の各種調査結果等をもとに、朝夕便の設定、双方向運行対応、運行便数の増加等、利便性の向上を目的に改正内容を取りまとめ、令和6年4月に路線改正を実施。 ・尾三地区合同のバスイベントを実施	A	計画通りの運行が実施されている。	目標17240 実績15337 達成率89.0%	B1	高齢者が主な利用者層のため、新型コロナウイルスの5類感染症への移行後についても移動需要が回復せず、コロナ前と比較し利用者が低迷している。	4.6	5.2	1.6	3.3	14.5	14.5	全体の約6割が市をまたぐ利用であり、交通結節点である長久手古戦場駅と本市東部を結ぶ非常に重要な路線である。 長久手市をはじめ、名古屋市や豊田市への通勤・通学・通院・買い物の足として幅広く利用され、市域を超えた移動を支える非常に重要な路線である。	・市内の75歳以上を対象とした「くるりんばす利用料金の優待サービス」の実施 ・乗り方教室の開催 ・イベントの開催 ・情報紙の発行

交通圏	①補助対象事業者等		②事業概要		③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点（特記事項を含む）	
	運営主体	運行事業者	No.、系統名	運行区間			【計画目標指標：利用者数】 A：達成 B：未達成 C：目標の半数にも満たず	輸送量(人)			収支率(%)				
								R6計画	R6実績	平均乗車密度	運行回数	R5実績			R6実績
05瀬戸・日進・豊明	尾張旭市	豊栄交通(株)	51 尾張旭市営バス（東ルート）	市役所 ～ イトーヨーカドー前 ～ 市役所	・利用者懇談会、利用者アンケートを実施 ・チョイスゼロとあさひの社会実験により、瀬戸市と尾張旭市間の交通需要の把握や移動の促進 ・アンケート調査により、コミュニティバスの主な利用先等を把握	A 計画通りの運行が実施されている。	A 目標106000 実績117768 達成率111.1%  新型コロナウイルスの影響が希薄になり、移動需要が回復してきたことによる。	64.9	78.5	5.2	15.1	16.8	16.7	市を跨いでの利用が全体の7.4%を占め、広域的な路線の役割を果たしている。 愛知医大及びパロー瀬戸西店バス停にてあさひ号へ乗り継ぐことができ、商業施設や名鉄瀬戸線三郷駅周辺への足となっている。愛知医大留所は総合病院への通院利用に加え、バスロータリーが併設されており、隣接市のコミュニティバスや名鉄バスへの乗り換えの拠点としても多く利用されている。	・利用者ニーズに沿った運行計画の再編を検討 ・市イベント等で周知を行うなど、利用促進を継続 ・乗り継ぎニーズを高めるため、近隣自治体との情報共有、路線の魅力発信
05瀬戸・日進・豊明	東郷町	瀬戸自動車運送(株)	62 じゅんかい君（北コース）	ららばーと愛知東郷 ～ 日進駅 ～ ららばーと愛知東郷	・大型商業施設と連携した利用促進イベントを実施 ・上記イベントについて、日進市広報への掲載（乗継事例含む。）、町広報、HP等で周知 ・窓口、公共施設等での路線図・時刻表・バスマップの配布 ・沿線市町を含む尾三地区管内の担当者会議を開催し、広域連携のあり方について情報共有	A 計画通りの運行が実施されている。	A 目標114610 実績140424 達成率122.5%  新型コロナウイルスの影響が希薄になり、移動需要が回復してきたことによる。	33.4	51.3	2.3	22.3	11.1	20.7	市町を跨いでの利用が利用者の25.0%を占め、広域的な路線の役割を果たしている。日進駅に接続することにより、通勤・通学利用の他、日進市を含め町外から東郷町内への買い物需要や、東郷町内から町外への移動需要に対応しており、町を跨ぐ広域移動を確保する重要な路線である。	・大型商業施設と連携したバス利用促進イベントの実施 ・他市町広報掲載依頼、HP、SNS等の町外への広報の実施 ・市役所窓口での路線図・時刻表の配布 ・市HP等での市内巡回バスと当該系統との乗継による移動事例の紹介
06東海・半田・大府・常滑・美浜	知多乗合(株)	知多乗合(株)	37 半田・常滑（N）	日本福祉大学 ～ 知多半田駅 ～ 常滑駅	・沿線自治体と連絡し、広報等に路線時刻表を掲載 ・東海市循環バス路線図に路線バスの路線を明示 ・時刻表と路線バス時刻表を併せて配布 ・大府市循環バスの路線図及び時刻表に横須賀（A）線への乗継箇所を明示し、公共施設窓口及び市内主要施設に配布	A 計画通りの運行が実施されている。	B2 目標90000 実績59708 達成率66.3%  2022年10月のダイヤ改正で便数は変わらずだが、時間帯の変更が要因で利用者数が減少した。	29.5	19.8	5.5	3.6	40.0	40.2	市境をまたぐ利用がおよそ3割弱を占め、広域的な路線の役割を果たしている。東海市と大府市を繋ぐ重要な基幹路線であり、高等学校近くに停留所があることで通勤・通学利用者も多い。所轄の警察署まで行く手段でもある。	・利用しやすいダイヤ設定と周知 ・横須賀(A)線のPR活動を継続 ・路線バスにおける利用者増加策を模索

交通圏	①補助対象事業者等		②事業概要		③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点（特記事項を含む）			
	運営主体	運行事業者	No.、系統名	運行区間			【計画目標指標：利用者数】 A：達成 B：未達成 C：目標の半数にも満たず	輸送量(人)			収支率(%)						
								R6計画	R6実績	平均乗車密度	運行回数	R5実績			R6実績		
06東海・半田・大府・常滑・美浜	知多乗合(株)	知多乗合(株)	39	東ヶ丘団地	東ヶ丘駅前～東ヶ丘駅前(循環)	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標27580 実績31868 達成率115.5%	21.3	27.7	1.3	21.3	29.0	30.6	市境をまたぐ利用がおよそ5割弱にのぼり、広域的な路線の役割を果たしている。名鉄東ヶ丘駅との乗継利用が多く、通勤通学の利用が多い。阿久比町循環バスとの乗継利用や、高根台在住の住民にも利用されている。	・利用しやすいダイヤ設定と周知 ・乗り方教室等の利用促進策の実施 ・交通需要の把握 ・バス停に他のバス路線にも乗継ぎできる旨の案内チラシを掲示
06東海・半田・大府・常滑・美浜	知多乗合(株)	知多乗合(株)	40	上野台	共和駅前～上野台～太田川駅前	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標198022 実績229542 達成率115.9%	66.8	97.8	6.0	16.3	71.0	87.1	市境をまたぐ利用がおよそ3割にのぼり、広域的な路線の役割を果たしている。東海市と大府市を結ぶ重要な公共交通手段であり、鉄道駅と結ぶことによる通勤・通学及び買い物利用者が多い。	・利用しやすいダイヤ設定と周知 ・東海市循環バスのダイヤ・ルート再編に伴う乗り継ぎを含めた利用促進を実施 ・上野台線のPR活動を継続 ・路線バスにおける利用者増加策を模索
06東海・半田・大府・常滑・美浜	知多乗合(株)	知多乗合(株)	41	大府	大府駅前～長寿医療センター～げんきの郷	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標47919 実績90620 達成率189.1%	23.0	45.0	4.5	10.0	63.1	87.6	市境をまたぐ利用がおよそ2割にのぼり、広域的な路線の役割を果たしている。朝夕を中心とした通勤・通学に加え、日中の通院やげんきの郷利用者が多い。	・利用しやすいダイヤ設定と周知 ・大府市のPR活動を継続 ・路線バスにおける利用者増加策を模索 ・乗り方教室等の利用促進策の実施 ・交通需要の把握
06東海・半田・大府・常滑・美浜	知多市	知多乗合(株)	42	あいあいバス(北部循環コース)	朝倉駅～朝倉駅(循環)	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標57500 実績66039 達成率114.9%	23.5	28.4	2.9	9.8	6.3	6.3	東海市にある公立西知多総合病院と、阿久比町にあるカネエ工阿久比店の利用が多い。知多市東部地区の住民は、隣接する東海市や阿久比町に生活圏があることから、通院、買い物など日常生活の移動手段として利用されている。乗り継げるバス停が増えたことで、相互利用による住民の往来が増えている。	・バスロケーションシステムの積極的なPR ・システムを活用した利用実態の把握 ・バスの乗り方教室の開催等、バスの利用方法の啓発 ・高校での出前講座 ・東海市循環バスの再編後のダイヤ・ルートについてアンケート調査や乗降調査の分析を進め、あいあいバスとの相互利用が可能なダイヤを引き続き検討 ・阿久比町役場において時刻表を配架
06東海・半田・大府・常滑・美浜	南知多町	レスクル(株)	61	海っ子バス(南知多・美浜環状線)	師崎港～河和駅～師崎港	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標213000 実績271044 達成率127.3%	99.2	130.8	4.1	32.0	0.0	41.4	町境を越えての病院や河和駅への利用者が多く、広域的な路線の役割を果たしている。美浜町内に所在する名鉄河和駅を利用の際の公共交通手段の一つとして活用されている。	・HP、広報誌を活用したPR、町民感謝デー等の継続実施 ・タウンミーティング、高齢者サロンでの意見を述べて、空白地対策の方法などを検討 ・観光用遊電子チケットの作成と情報提供

交通圏	①補助対象事業者等		②事業概要		③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
	運営主体	運行事業者	No.、系統名	運行区間			【計画目標指標:利用者数】 A:達成 B:未達成 C:目標の半数にも満たず	輸送量(人)				収支率(%)			
								R6計画	R6実績	平均乗車密度	運行回数	R5実績			R6実績
06東海・半田・大府・常滑・美浜	武豊町	知多乗合(株)	43	ゆめころん(赤ルート)	武豊町役場 ～ イオン半田店 ～ 武豊町役場	A	A	49.5	63.9	7.1	9.0	23.2	24.3	半田市の大型商業施設と名鉄青山駅に接続する停留所を設けたことで、行政機能を果たすことなく移動できる広域的な交通網が形成されている。路線全体の利用者の2割以上が半田市への乗り入れを行っている。令和5年10月から令和6年9月の期間において、上記2ヶ所の停留所の合計乗降者数は、対前年同期間比5.435人増となり、利用者の増加・定着につながっている。青山駅に屋根付きバス停を設置し環境整備を図ったこと、乗り入れを行うバス路線を設置したこと、利用者の定着に寄与している。今後も広域的な交通網としての確保維持が必要である。	・無料乗車券等の利用促進事業実施 ・町広報紙面を活用した「コミュニティバスニュース」(不定期)による情報発信 ・公共交通を活用する生活スタイルへの転換の呼びかけ ・無料対象者以外の層(若年層)に対するコミュニティバス利用の呼びかけ ・接続する広域的な交通ネットワークの情報発信 ・利便性向上に向けた交通系ICカード決済端末及びバスロケーションシステムの導入 ・地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく事業の適切な実施
07小牧・犬山・江南	名鉄バス(株)	東濃鉄道(株)	63	岩倉	岩倉駅 ～ 藤島団地 ～ 名鉄間内駅	A	A	12.0	20.4	1.7	12.0	40.1	41.2	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期10.4%、通学定期5.2%、ゴールド・シルバーバスを利用する高齢者7.8%、現金、ICSFの定期外76.6%。市域跨ぎの利用者増加が全利用者の増加につながっており、増加している岩倉・間内駅の利用者が大半である。また岩倉団地から岩倉駅までのアクセス手段、小牧市南部の先里地区の住民が岩倉駅、間内駅へのアクセス手段として利用していると考えられる。	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・小牧市沿線地区回覧、沿線小中学校、沿線事業所へのチラシ配布 ・路線図、時刻表の配布やHPへの掲載 ・市内イベントにおいて啓発活動実施
08津島・あま・弥富	飛島村	三重交通(株)	55	飛島公共交通バス(蟹江線①)	近鉄蟹江駅前 ～ 公民館分館	A	A	68.4	72.0	4.0	18.0	45.3	44.2	往路復路ともに、近鉄蟹江駅を利用する通勤・通学者が大多数を占めている。飛島村在住の利用者をはじめ、弥富市南部の在住者、また、近鉄蟹江駅前から飛島村臨海部への通勤者も多く、市町村をまたぐ系統として役割は大きい。	・アンケート調査に基づく増便、ダイヤ改正、名駅直行便など利便性向上策の導入検討 ・弥富市南部地域の公共交通網再編の社会実験の結果を踏まえ、蟹江線と接続する東部ルートについても、住民意見交換会などを実施し、利便性向上のための公共交通網再編を実施 ・利用者の幅を広げるため、沿線上のイベントや行事のPR ・他の交通機関との連携を強化する
08津島・あま・弥富	飛島村	三重交通(株)	56	飛島公共交通バス(蟹江線②)	近鉄蟹江駅前 ～ 新政成神社	A	B1	17.5	18.5	3.7	5.0	45.3	44.2	往路復路ともに、近鉄蟹江駅を利用する通勤・通学者が大多数を占めている。飛島村在住の利用者をはじめ、弥富市南部の在住者、また、近鉄蟹江駅前から飛島村臨海部への通勤者も多く、市町村をまたぐ系統として役割は大きい。	・アンケート調査に基づく増便、ダイヤ改正、名駅直行便など利便性向上策の導入検討 ・弥富市南部地域の公共交通網再編の社会実験の結果を踏まえ、蟹江線と接続する東部ルートについても、住民意見交換会などを実施し、利便性向上のための公共交通網再編を実施 ・利用者の幅を広げるため、沿線上のイベントや行事のPR ・他の交通機関との連携を強化する
09刈谷・安城・碧南・西尾	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	10	ふれんどバス①	吉良高校 ～ 碧南駅	A	B1	42.0	40.8	3.4	12.0	26.2	23.3	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、利用者の内訳は、通勤定期15.3%、通学定期62.6%、ゴールド・シルバーバスを利用する高齢者0.3%、現金、ICSFの定期外21.8%。住宅地と駅、住宅地と学校を結ぶバスとして、市を跨いだ通勤・通学に大きな役割を果たしている。通学利用の他、沿線地域の住民が鉄道を利用する際に吉良吉田駅・碧南駅までの広域的な利用が見られる。	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・時刻表の配布 ・市広報紙やHPで情報を発信PR

交通圏	①補助対象事業者等		②事業概要		③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点（特記事項を含む）		
	運営主体	運行事業者	No.、系統名	運行区間			【計画目標指称：利用者数】 A：達成 B：未達成 C：目標の半数にも満たず	輸送量(人)				収支率(%)				
								R6計画	R6実績	平均乗車密度	運行回数	R5実績			R6実績	
09刈谷・安城・碧南・西尾	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	11	ふれんどバス②	吉良高校 ～ 碧南高校	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・時刻表の配布 ・市広報やHPで情報を発信PR	A	目標131817 実績160772 達成率122.0%	44.5	50.4	5.1	9.9	35.0	31.4	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期8.3%、通学定期12.3%、ロード・パルバスを利用する高齢者0.0%、現金、ICSFの定期外19.3%。住宅地と駅、住宅地と学校を結ぶバスとして、市を跨いだ通勤・通学に大きな役割を果たしていると考えられる。地域外からの通学利用の他、沿線地域の住民が鉄道を利用する際に吉良吉田駅・碧南駅までの広域的な利用が見られる。	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPRに掲載し情報提供 ・サイクル&バスライドの推進 ・公共交通マップ、総合時刻表作成 ・外国籍住民を対象にした多言語対応のパンフレット配布 ・乗り方教室等を通じたバス利用のPR
	安城市	名鉄バス(株)	18	あんくるバス(西部線)	新城駅南口 ～ 三河安城駅中央口経由 ～ 新城駅南口	・大規模商業施設の最寄りバス停の設置について、関係者と調整を実施 ・運行事業者、地元高校生と連携したあんくるバスの行動プラン作りなど、新しい利用促進施策を検討	A	目標53800 実績63965 達成率118.2%	46.9	60.9	8.7	7.0	24.3	25.0	東刈谷駅バス停の乗車数は238人/月であり、安城市と刈谷市を跨ぐ利用者数であると想定されるため、広域的な路線として役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は通勤、通学や安城更生病院、刈谷豊田総合病院への通院、市外への買い物のための利用者が多いと考えられる。東刈谷駅の周辺に在住の住民が、三河安城駅への移動手段として利用していることが想定される。	・地元高校生と連携した利用促進策を実施 ・まちかど講座や勉強会を通じ、知識の向上や課題の抽出・共有による公共交通に対する意識醸成
	安城市	名鉄バス(株)	19	あんくるバス(作野線)	新城駅南口 ～ 三河安城駅中央口経由 ～ 新城駅南口	・大規模商業施設の最寄りバス停の設置について、関係者と調整を実施 ・運行事業者、地元高校生と連携したあんくるバスの行動プラン作りなど、新しい利用促進施策を検討	A	目標53100 実績66346 達成率124.9%	47.6	61.6	8.8	7.0	24.3	25.2	東刈谷駅バス停の乗車数は238人/月であり、安城市と刈谷市を跨ぐ利用者数であると想定されるため、広域的な路線として役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は通勤、通学や安城更生病院、刈谷豊田総合病院への通院、市外への買い物のための利用者が多いと考えられる。東刈谷駅の周辺に在住の住民が、三河安城駅への移動手段として利用していることが想定される。	・地元高校生と連携した利用促進策を実施 ・まちかど講座や勉強会を通じ、知識の向上や課題の抽出・共有による公共交通に対する意識醸成
	知立市	名鉄バス(株)	20	ミニバス(2コース)	知立駅 ～ 三河八橋駅 ～ 知立駅	・運行ルートの見直しを検討 ・三河知立駅が移設開業されたことに伴い、周辺住民や駅利用者、公式LINEアカウント上でアンケート調査を実施 ・整備による代車運転の頻発をなくすため、新車両の導入 ・当該路線の情報を豊田市バスマップに掲載	A	目標31511 実績32568 達成率103.2%	17.8	20.4	2.3	8.9	11.5	11.7	三河八橋駅バス停の利用者数は161人/月で、昨年度から13人/月増加。2コースの停留所のうち、三河八橋駅バス停は利用者も多く、豊田市方面への通勤、通学、買い物等の利用があり、広域的な路線としての役割を果たしている。市町村を跨いでの利用者は5.9%を占めており、豊田市から知立市への通勤・通学等の手段として一定の役割を果たしている。	・運行ルートの見直しを検討 ・広報・HP、公式LINEアカウントを活用し、最新情報を提供 ・豊田市バスマップに引き続き当該路線情報を掲載
	知立市	名鉄バス(株)	21	ミニバス(3コース)	知立駅 ～ 東刈谷駅 ～ 知立駅	・「ちりゅうこどもフェスティバル」にバス車両を持ち込み、バスの乗車体験や写真撮影等を実施	A	目標61759 実績76677 達成率124.1%	54.0	71.0	6.7	10.6	24.9	25.7	東刈谷駅北口バス停からの利用者数は、924人/月で、昨年度より149人/月増加。JR東海道線を利用した通勤・通学や、刈谷市公共バスを利用した総合病院への通院への利用で広域的な路線としての役割を果たしていると考えられる。東刈谷駅周辺住民が商業施設や名鉄知立駅への移動手段として、利用していることが考えられる。	・子供向けイベントにてバスの乗車体験を行い、子育て世代の認知度を向上 ・広報HP、公式LINEアカウントを活用し、最新情報を提供
知立市	名鉄バス(株)	22	ミニバス(4コース)	知立駅 ～ 野田新町駅 ～ 知立駅	・知立市老人クラブの会員を対象とした「ミニバス講座」を開催し、ミニバスの乗り方や無料バスポートの利用方法を周知	A	目標28072 実績34056 達成率121.3%	19.6	25.4	2.6	9.8	11.3	11.9	野田新町駅北口バス停からの利用者数は260人/月で、昨年度より9人/月増加。JR東海道線を利用した通勤・通学や、刈谷市公共バスを利用した総合病院への通院への利用で広域的な路線としての役割を果たしていると考えられる。野田新町駅周辺住民が商業施設や名鉄知立駅への移動手段として、利用していることが考えられる。	・引き続き「ミニバス講座」を開催を行い、新たな利用者の開拓を行う ・広報・HP、公式LINEアカウントを活用し、最新情報を提供	

交通圏	①補助対象事業者等		②事業概要		③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点(特記事項を含む)				
	運営主体	運行事業者	No.、系統名	運行区間			【計画目標指標:利用者数】 A:達成 B:未達成 C:目標の半数にも満たず	輸送量(人)			収支率(%)							
								R6計画	R6実績	平均乗車密度	運行回数	R5実績			R6実績			
09刈谷・安城・碧南・西尾	名鉄東部交通(株)	名鉄東部交通(株)	46	一色	西尾(西尾市民病院)～福地～一色町公民館	・利用実態に合わせて令和5年4月1日にダイヤ改正 ・車内美化や換気を行うとともに、定時運転確保や安全運転に努めた ・小学生とその保護者を対象とした企画切符を制作、配布 ・市内公共交通を網羅した公共交通マップの作成 ・総合時刻表を作成	A	令和6年1月25日の大雪による運休以外の運休はなかった。	A	目標82026 実績108622 達成率132.4%	35.7	44.1	4.2	10.4	107.5	100.5	一色地区と西尾市中心部を結ぶ路線であり、地域住民の日常生活における交通手段を確保している。通勤通学や日中の通院のほか、西尾駅で鉄道から乗り換え久島へ向かう観光客など、一色地区と西尾市中心部を跨る利用が多く見られる。	・利用者の利便が向上する運行に努める ・道路状況の把握に努め、定時運行確保 ・いこいの農園への路線延長を検討
	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	3	矢並	豊田市～矢並区民会館前～足助	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・路線情報を市バスマップ、市HPに掲載	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標112166 実績113120 達成率100.9%	38.7	42.1	3.7	11.4	43.4	40.6	両地区を跨ぐ利用者の内訳は、通勤定期25.6%、通学定期25.6%、コーダ・シルバーバスを利用する高齢者5.1%、現金、ICSFの定期外43.6%。豊田市中心部から足助地区への通勤利用者や秋の青嵐深シーズンには観光目的の利用が多くある。豊田市郊外と豊田市中心部を繋ぐ移動手段として、重要な役割を果たしている。	・HP、スマートフォンでの時刻検索システム提供 ・バスロケーションシステムの提供 ・コンテンツプロバイダへのデータ提供 ・高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPR ・豊田市バスマップ、市HPに引き続き当該路線の情報を掲載
	豊田市	名鉄バス(株)	15	おいでんバス(旭・豊田線)	小渡～広瀬～豊田市	・交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握 ・改善基準告示を踏まえたダイヤの見直し ・各種イベントでバスPRの実施	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標80446 実績100015 達成率124.3%	28.0	34.5	3.2	10.8	18.9	19.6	市町村(合併以前)を跨いでの利用者は1割以上あり、山村部と都市部の移動手段として重要な役割を果たしている。	・利用実態に即したダイヤの検討 ・地域資源を活用した利用促進や通学支援の実施
	豊田市	名鉄バス(株)	16	おいでんバス(小原・豊田線)	上仁木～西中山～豊田市	・交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握 ・改善基準告示を踏まえたダイヤの見直し ・各種イベントでバスPRの実施	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標157909 実績183334 達成率116.1%	61.4	71.9	6.2	11.6	35.4	34.7	市町村(合併以前)を跨いでの利用者は全体の1割以下にとどまっているものの、一定の割合で市郊外から市中心部への通勤・通学手段として利用されている。	・利用実態に即したダイヤの検討 ・地域資源を活用した利用促進や通学支援の実施
	豊田市	名鉄バス(株)	17	おいでんバス(藤岡・豊田線)(西中山経由)	藤岡中学校前～豊田市	・交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握 ・改善基準告示を踏まえたダイヤの見直し ・各種イベントでバスPRの実施	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標101216 実績103053 達成率101.8%	43.3	45.6	6.0	7.6	47.1	42.7	市町村(合併以前)を跨いでの利用者は、約6割と高い割合を保っている。市郊外から市中心部への通勤・通学手段として重要な役割を果たしている。	・利用実態に即したダイヤの検討 ・地域資源を活用した利用促進や通学支援の実施
豊田市	豊栄交通(株)	豊栄交通(株)	48	おいでんバス(藤岡・豊田線)(加納経由)	藤岡支所～豊田市	・交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握 ・改善基準告示を踏まえたダイヤの見直し ・各種イベントでバスPRの実施	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標82754 実績100687 達成率121.7%	37.2	46.3	4.1	11.3	34.9	35.8	市町村(合併以前)を跨いでの利用者は全体の4割を超え、市郊外から市中心部への通勤・通学手段として利用されている。また、昼間時においても、市郊外から市中心部への利用が一定数みられ、生活交通として重要な役割を果たしている。	・利用実態に即したダイヤの検討 ・地域資源を活用した利用促進や通学支援の実施

①補助対象事業者等		②事業概要		③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点（特記事項を含む）					
						【計画目標指標：利用者数】 A：達成 B：未達成 C：目標の半数にも満たず	輸送量(人)			収支率(%)								
運営主体	運行事業者	No.、系統名	運行区間				R6計画	R6実績	平均乗車密度	運行回数	R5実績	R6実績						
交通圏																		
10豊田	豊田市	豊栄交通(株)	49	おいでんバス (下山・豊田線)	大沼 ～ 鶯ヶ瀬 ～ 豊田市	・交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握 ・改善基準告示を踏まえたダイヤの見直し ・各種イベントでバスPRの実施	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標129972 実績158718 達成率122.1%	73.0	80.0	6.9	11.6	53.7	55.7	市町村(合併以前)を跨いでの利用者は、全体の約2割であり、山形部から都部への通勤・通学手段として重要な役割を果たしている。	・利用実態に即したダイヤの検討 ・地域資源を活用した利用促進や通学支援の実施
10豊田	豊田市	豊栄交通(株)	50	おいでんバス (さなげ・足助線)	豊田厚生病院 ～ 百年草	・交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握 ・改善基準告示を踏まえたダイヤの見直し ・各種イベントでバスPRの実施	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標159084 実績179576 達成率112.9%	68.0	71.2	4.4	16.2	35.6	34.1	市町村(合併以前)を跨いでの利用者の割合が全体の3割を超え、中山間地域からの通勤・通学手段以外にも、鉄道駅と視地地を結ぶ路線として、重要な役割を果たしている。	・利用実態に即したダイヤの検討 ・地域資源を活用した利用促進や通学支援の実施
10豊田	みよし市	愛知つばめ交通(株)	57	さんさんバス (拠点連携線)	豊田厚生病院 ～ みよし市民病院	・地域公共交通計画に基づき、各種事業を実施 ・待合環境の整備やバス乗り方教室を開催 ・商業施設において利用促進イベントを実施 ・当該路線の情報を豊田市バスマップに掲載して利用促進	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標112789 実績146255 達成率129.7%	38.4	65.6	4.1	16.0	15.7	27.6	市を跨いでの利用が利用者全体の約1割強を占め、みよし市内から、豊田厚生病院への通院及び浄水駅利用者が大部分と考えられる。また、隣接する浄水駅からみよし市内の商業施設等への利用も多く、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。	・現行交通計画を改定し、市公共交通の現況に即した目標を定め、計画的に事業を実施 ・小中学校と連携し、乗り方教室等を実施し、マイバス意識の醸成を図る ・豊田市バスマップに当該路線情報を掲載
10豊田	みよし市	愛知つばめ交通(株)	58	さんさんバス (三好黒笹線)	黒笹駅 ～ イオン三好 アイ・モール	・地域公共交通計画に基づき、各種事業を実施 ・待合環境の整備やバス乗り方教室を開催 ・商業施設において利用促進イベントを実施 ・当該路線の情報を豊田市バスマップに掲載して利用促進	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標119964 実績146412 達成率122.0%	49.5	105.0	7.0	15.0	15.8	28.6	市を跨いでの利用が利用者全体の約1割強を占め、みよし市内から、豊田厚生病院への通院及び浄水駅利用者が大部分と考えられる。また、隣接する浄水駅からみよし市内の商業施設等への利用も多く、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。	・現行交通計画を改定し、市公共交通の現況に即した目標を定め、計画的に事業を実施 ・市内小中学校と連携し、乗り方教室等を実施し、マイバス意識の醸成を図る ・豊田市バスマップに当該路線情報を掲載
09刈谷・安城・碧南・西尾	豊田市	高岡ふれあいバス運行	59	高岡ふれあいバス (路線②)	上丘町 ～ 高岡公園 ～ 知立駅	・前林地域の学生定期券の購入補助を継続実施 ・高齢者に対して回数券補助を実施 ・走行経路の検討 ・ミニバスガイドにおいて、高岡ふれあいバスに接続が可能という記述を記載	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標87328 実績104355 達成率119.5%	32.3	38.2	2.6	14.4	26.8	27.4	市町村を跨いでの利用者が大半を占めるため、通勤・通学・買い物等への手段として重要な役割を果たしている。市町村を跨いでの利用者が99.2%と非常に高い割合となっていることから、生活に欠かせない市民の足として役割を果たしている。	・利用目的・時間に応じた走行経路の検討 ・専門家への相談、地域住民へのアンケートや実証実験の実施 ・ミニバスとふれあいバスの乗り継ぎ等連携を継続 ・ミニバス・ふれあいバスを乗り継ぐモデルコースを作成
11新城	豊田市	豊鉄バス(株)	26	作手	新城富永 ～ 作手高里	・バスマップの発行、全戸配布、市内主要施設に設置	A	計画通りの運行が実施されている。	A	目標49919 実績52809 達成率105.8%	18.9	20.7	3.4	6.1	60.6	62.7	旧市村を跨いでの利用が利用者のほぼすべてを占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、沿線学校への通学利用者や新城市民病院への通院や新城駅への鉄道利用者などが大部分と考えられる。	・令和6年度末に導入予定の交通系ICカードのPR ・地元小学生向けイベントでの路線バスPR

交通圏	①補助対象事業者等		②事業概要		③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況						⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点(特記事項を含む)			
	運営主体	運行事業者	No.、系統名	運行区間			【計画目標指標：利用者数】 A：達成 B：未達成 C：目標の半数にも満たず	輸送量(人)			収支率(%)						
								R6計画	R6実績	平均乗車密度	運行回数	R5実績			R6実績		
11新城	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	27	新城病院上平井田口	新城市民病院 ～ 田口	・期間限定で田口新城線フリー乗車券のラインナップを拡充 ・設楽ダム見学ツアーを実施	A	計画通りの運行が実施されている。	目標37815 実績47187 達成率124.8%	14.2	18.6	2.1	8.9	28.7	25.9	旧市町を跨いでの利用が利用者の半数以上を占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、沿線学校への通学利用者や新城市民病院への通院や本長篠駅への鉄道利用者が大部分と考えられるほか、JR本長篠駅での乗り継ぎによる豊川市方面の高校へ通学利用もある。	・ゾーン制運賃の導入 ・設楽町役場への延伸 ・企業団地等新規利用者が見込まれる運行ルートへの変更 ・1日乗車券の販売 ・令和6年度末に導入予定の交通系ICカードのPR ・乗り継ぎ拠点となるバス停を整備
01名古屋 05瀬戸・日進・豊明 11新城	豊鉄バス(株)	豊鉄バス(株)	35	新城名古屋藤が丘線	新城市民病院西 ～ 長久手古戦場駅	・風茶寺山の行楽シーズンにあわせた新聞広告掲載 ・運賃助成キャンペーンを実施	A	計画通りの運行が実施されている。	目標18159 実績18801 達成率103.5%	16.8	20.0	6.9	2.9	39.6	41.4	高速乗合バスとして新城市と名古屋及び長久手市を結ぶ路線で、すべての利用者が市を跨ぐ利用をしており広域的な路線の役割を果たしている。新城市から名古屋への通勤・通学や名古屋圏から新城市への観光で利用されている。長久手古戦場駅停留所は、リニモ長久手古戦場駅と隣接しているほか、併設されたバスロータリーに隣接している。条項調査の情報から移動ニーズを把握 ・市主催のイベント等で周知を行うなど利用促進を継続	・奥三河地域住民への周知を充実 ・令和6年度末に導入予定の交通系ICカードのPR ・交通エコライフの取組継続 ・藤が丘商店街との繋がりを生かし、名古屋圏のイベントでのPR継続

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

協議会名：	愛知県地域公共交通協議会 バス対策部会
評価対象事業名：	陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>鉄軌道網の整備が進み基幹的公共交通網は維持されているが、自動車分担率が高い地域であることを踏まえた上で、複数市町村を跨ぐ広域的・幹線的な公共交通網の維持・確保を図る。</p> <p>実施に当たっては、乗合バス事業者等運営主体と沿線市町村が協力して目標設定、利用促進、利便性・生産性向上検討を行い、事業評価にあたっては、運営主体、沿線市町村が情報交換、意見交換を行って、路線の状況を共有する。</p>